

地域医療構想に係る病院関係者等会議開催結果概要

1 開催概要

- (1) 目的：相模原構想区域内における病院関係者等が一同に会し、区域内の病床の機能分化・連携に関する情報共有・意見交換等を行い、もって地域医療構想の推進に向けた自主的な取組や連携を図ることを目的に開催した。
- (2) 日時：平成30年7月3日（火） 18時30分～20時20分
- (3) 会場：ウェルネスさがみはら視聴覚室

2 主催

公益社団法人相模原市病院協会（「神奈川県・神奈川県病院協会支援事業」）

3 出席者

- ・ 医療機関 27病院（65人） ※医療圏内の全病院数 37病院
- ・ 行政（神奈川県医療課、相模原市地域医療課） 5人
- ・ 相模原市病院協会事務局 3人

4 議題

(1) 地域医療構想について

小松相模原市病院協会副会長より地域医療構想、本会議の在り方について、説明を行った。

○2025年を見据えた中では、地域包括ケア病棟が重要。

○相模原市においては、病床不足に対応するための病院間の効率的な連携体制の確立が必要。

○潜在的入院医療予備軍が多い中、在宅医療でどう補っていくのか、医療側にいくのか、介護側にいくのか、その動向に影響を受けることになる。

○人材確保の解決策、人材交流の可能性、救急医療提供体制の維持、高齢者救急などの課題がある。

○本会議は、地元の医療機関同士で高齢者医療をどのように提供していくか話し合う場として位置づけている。

(2) 各病院発表（各病院が抱える課題と将来の展望等について）

出席病院の現状（役割と課題）、入院・外来機能についての考え方、連携（病病、病診、病施設）、人材の充足状況、将来の展望等について各病院がプレゼンテーションを行った。

○自院における将来の展望については、現状維持が多かったが、ダウンサイジングを検討中、高齢化に備え増床や診療科を増やしたいなどの考えを持つ病院もあった。

(3) 意見交換（主な意見等）

○回復期リハビリテーション病棟の充足状況について、実際に病棟運営する病院を中心とした意見交換があった。運営するにあたっては、診療報酬上厳しいアウトカム評価が求められており、入院患者をある程度選択している状況と、リハビリ3職種が不足しており確保が困難な状況が報告された。

○地域全体で連携し機能を分担できるような会議にしていきたい。

○機能の分化、連携の強化が地域医療構想のキーワードではないか。

○2025年に向かい、病院も共生が重要である。

○地域医療構想調整会議での情報は今後とも病院間で共有したい。

○市においても介護と医療の推進会議の中で高齢者救急についてのワーキングが始まる。

市、市民、医療機関が三位一体で解決していかなければならない。共通の問題があったら提起していただきたい。

○人材不足（介護職が不足しているなど）も地域医療構想の中に入る。医療側から行政に提言していきたい。

○実態として高齢者が増えていくことは確実である。そうした中、増床意向を示している病院が少ないのは、患者が増えている実感がないのではないか。数字上の推計と現場の判断と感覚に乖離があるのではないか。

○増床するにしても実際のニーズがあるのか検討している。問題点として、脳血管疾患などを診る医師が不足している。

○セラピストのなり手がいない。OT、STが深刻化している。

以 上